八事山文庫

2911号

特集

紅葉まつり …………2ページ
法類寺院紹介 …………9ページ
八事今昔物語 …………11ページ

千燈祭を彩る子どもたち
お稚児さんの健やかな成長を願う

千燈祭が10月7日に行われました。千燈祭は明治24年に発生した濃尾地震犠牲者の鎮魂供養のためにはじまったと言われ、今日まで秋の風物詩として定着しています。当日は100名を超えるお稚児さんとその家族が僧侶と共に八事の街を練り歩き、法会を荘厳いたしました。

杜のコラム

立冬を過ぎれば、暦の上ではもう冬。空高く晴れた朝いちばんの空気は冴えわたり、刺すように冷たくはあるけれども、凛とした清さを感じる。外に出て、夜の間肺にあった空気を吐き出し、思いきり吸いこんだ。深呼吸するのはいつぶりだろう。

人がこの世に生を受け母胎から出づるとき、人は大きく大きく泣き声を上げる。声を出すということはすなわち、息を吐くということ。呼吸は文字の通り「呼」、口や鼻から空気を出すことで始まるのである。

しかしながら、吸って吐いてと言うように、どちらかといえば息は吸う方に意識が向きがちだ。水泳で息継ぎが出来ない子どもの多くは、水中で吐くことをしていない。ぎゅっと息を止めていても、肺の中にまだ空気が入っているからそれ以上は吸い込めないのである。少しずつ吐いて隙間を空けてあげれば、顔を上げた瞬間に自然と空気は入ってくるのだが。

現代人はどうやら吐くことが苦手なようである。鼻からでも口からでも構わない。大きく息を吸ったあと、ゆっくりと息を吐き出し続けてみてほしい。すべて吐き切るまで、どれくらいの時間がかかっただろうか。これが二十秒未満であれば呼吸が浅くなっている可能性がある。呼吸が浅いとは、一度に吸える量が少ないという事。一回の酸素量が少ないため、自然と吸う動作が増えてしまうのだが、吸う息は活動を司る交感神経を活発にする。浅い呼吸を重ねることによって、この交感神経が強く作用しすぎてしまい、落ち着かない、過剰に緊張する、理由なく不安を覚えるなどの悪影響が出やすいという。

では呼吸を深くするためにはどうしたらよいのか。「吸」の対、すなわち「呼」を行うことだ。眠る前に数回、息を長く吐いてみる。細く長く、遠くへ、より遠くへ。身体がじんわりと温かくなり、気持ちが穏やかになるのを感じるだろう。

息は自らの心、そして生そのものだ。産声を上げ、そして息を引き取るまで、私たちと呼吸は切っても切れないものなのである。

11/3（金・祝）・4（土）・5（日）・11（土）・12（日）・18（土）・19（日）・25（土）・26（日）
七五三 身体健全祈祷会

各日 10時・11時・12時・13時・14時・15時開始
※法会のため 12日10時・15時／26日15時の回はございません。

◎対象（平成二十九年度）
● 平成二十三年生まれ（七歳）
● 平成二十五年生まれ（五歳）
● 平成二十七年生まれ（三歳）
※満年齢でも受付いたします。

祈祷料 五千円 御幣（お子様の名前入り）・御守・千歳飴付
※個別での御祈祷をご希望の場合は随時承ります。お問い合わせください。
※混み合う場合はお待ちいただく場合がございます。（予約優先）

11/8（水） 大日堂収穫祭

12時30分より 大日堂にて

春にみなさまと植えた芋の苗。いよいよ秋の収穫です。大きくなっているでしょうか。どなたでもご参加できます。土を触りますので、お越しいただく際は、汚れてもよい動きやすい服装でお越しください。

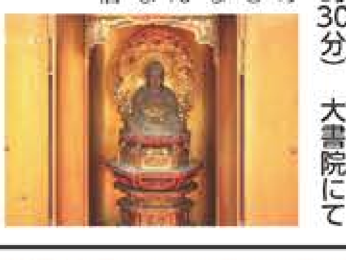
（写真はイメージです）

11/7（火）〜10（金） 秋の宝物展「ちいさな仏」展

10時〜16時（最終受付15時30分） 大書院にて

興正寺に祀られている、多くの仏さま。その中に、まるで埋もれてしまいそうなほど小さな仏さまたちがいます。なぜこんなに小さいのでしょう。小さな仏さまたちを通して、様々な信仰と祈りの形を考えます。

同時開催
絵のない絵解き
「ちいさな仏たち ―掌のなかの小宇宙―」（桝田英伸）
宝物展会場にて



11/4（土）・10（金）・16（木） 【無料】お坊さんダイレクト

毎月第1土曜・第2金曜・第3木曜

各日10時〜15時 完全予約制（各回50分ずつ）

仏事の疑問に僧侶がホンネで答える新スタイル相談会。墓じまい・仏壇じまいの疑問、永代供養・葬儀の相談などお気軽にお問い合わせください。
☆予約申込 WEBまたは電話にて

12/2（土） 紅葉まつり

今年も「古本供養市」を同時開催。手作り絵本体験や人力車、美味しい屋台もございます。ご家族・ご友人と愉しいお寺時間をお過ごしください。

供養・祈祷・その他お問合せは 052-832-2801（年中無休／9:00〜18:00）まで。興正寺公式ホームページも随時更新中です。

Yagoto-San Koushoji Momiji Festival 2017

紅葉まつり（もみじまつり）

同時開催

古本供養市

古本供養市で使える！
10時からの法会参加で
200円券を進呈！

親子で楽しむ！

12/2（土）
10時～16時
入場無料
〈雨天決行・荒天中止〉

興正寺会場

読み聞かせも

手作り絵本体験／絵本作家の似顔絵屋さん

絵本作家さんに教わる手作り絵本教室（無料）や手描きの似顔絵（有料）のほか、読み聞かせ（時間限定）、雑貨販売も！

共催：なかがわ創作えほん教室

毎年恒例

男前人力車

興正寺⇔いりなか会場を人力車が走ります！
■乗車料 1区間1乗車500円

いりなか会場

共催：いりなか商店街発展会

おトクな模擬店・フリマ・子どもの遊びブース登場！

※開催状況によっては変更の可能性があります

寺通 その四十一

高野正清

十一月になりますと寒さも秋から冬へと変化していく頃かと思います。興正寺もお盆、彼岸、千燈祭とたくさんの行事が終わり一段落といったところでしょうか。ですがあと一月もすれば年越しがやって参ります。一年って本当に早いですね。

さて、唐より帰国して十年。お大師さまは真言密教を広め、根本道場を開くに相応しい場所を求めて、各地を巡錫します。お大師さまと高野山の地は、どのようにして出会うことになったのでしょうか。

◆◆◆狩場明神と二匹の犬◆◆◆

お大師さまが四十二歳の時、白い犬と黒い犬が道案内をして高野山へたどり着く事が出来たという伝説が残されています。

道場を開く場所を求め、歩いていたお大師さまは、大和国宇智郡(現在の奈良県五條市付近)で、白と黒の二匹の犬をつれた狩人に出会います。狩人に「どこへ行かれるのか」と尋ねられたお大師さまは、「密教の教えを広めるため、伽藍を建てるのにふさわしい場所がないかと探しています」と答えます。すると狩人は、「ここから少し南の紀州の山中に、あなたの求めているよい場所があります。この犬に案内させましょう」といって、そのまま姿がみえなくなりました。この狩人は、今日高野山にお祀りされている狩場明神であるといわれています。

二人が出会ったこの場所には犬飼山 轉法輪寺が建立され、今でも大切にまつられています。

◆◆◆丹生明神◆◆◆

お大師さまは、二匹の犬に案内されて高野山に登る途中、丹生明神のお社までたどり着きました。すると、明神さまが姿を現わされて、お大師さまをお迎えし、「今菩薩(お大師さまの事)がこの山に来られたのは全く私の幸せです。南は南海、北は紀ノ川、西は応神山の谷、東は大和国を境とするこの土地をあなたに永久に献上します」と告げられました。

導かれ、高野山に辿りついたお大師さまは、「山の上とは思われない広い野原があり、周囲の山々はまるで蓮の花びらのようにそびえ、これこそ真言密教を広めるのに適した場所だ」とお喜びになられました。

また高野山の松にはお大師さまが唐での勉強の後、帰国に際して、明州の浜辺から投げられた三鈷が引っかかっていました。この松の木は「三鈷の松」と呼ばれています。本来なら松の木は葉が二葉なのに対し三鈷の松は三葉になっており、形が三鈷に似ていることもあって縁起物とされ、お守りとして大切に持たれている方もいます。

◆◆◆御開創◆◆◆

お大師さまはこの場所こそ私が求めていた土地だと、高野山を真言密教の根本道場に定められました。その後、朝廷に上表して嵯峨天皇からも許可を賜り、多くの弟子や職人と共に、木を切り、山を拓いて、堂塔を建て、伽藍を造られました。国や社会の安寧とそこに住まう人々の幸福のために祈りを捧げる場所として、人々の幸福に寄与しうる人材を育成する道場として。弘仁七年(八一六年)、高野山はついに開かれたのです。

またお大師さまは、開創にあたって高野山へと導いてくださった丹生明神と、狩場明神の御心に感謝し、この二神を高野山にお祀りになりました。現在の伽藍のお社が、それでございます。

南無大師遍照金剛

△丹生官省符神社

△丹生都比売神社楼門

八事山歳時記

千の法基が道を照らす　千燈祭

「千燈祭」が十月七日、境内全域で執り行われました。総本尊大日如来の宝前で、真言秘奥の柴燈大護摩供を修する當山最大行事です。山伏の衣装を身に着けた僧侶と共に色とりどりの衣装を身にまとったかわいらしい稚児たちが八事の街を練り歩き、祭りに華を添えました。

△稚児行列お練りの様子

△火渡りの修行「火生三昧」

△本堂にて行われた個別祈祷

△ずらりと並んだ願い燈籠

△知多半島こころ会の和太鼓奉納

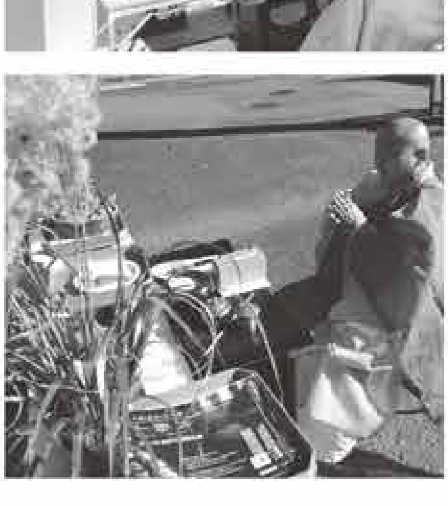
△にぎわいを見せる大日堂

年に一度の御仏縁　西山観音堂　秘仏開扉

尾張徳川家二代目藩主 光友公の念持仏として伝わる正観世音菩薩が、興正寺の縁日である十月五日と十三日にご開帳されました。参拝者の方々は年に一度の秘仏開扉に、観音さまとのご縁を結ばれました。観音堂のご開帳は毎年十月五日と十三日に行われます。

月見団子祈祷

中秋の名月（旧八月十五日）にあたる十月四日、月見団子祈祷が行われました。月見は中国から伝わったもので、もともとは貴族が宴を催して風雅を楽しむ行事でした。それが庶民に伝わり、美しい月を観賞しながら、秋の収穫に感謝をするようになったと言われています。



秋季彼岸会

九月二十日～二十六日

秋のお彼岸の合同供養会が西山本堂と圓照堂にてそれぞれ厳修され、壇信徒の方々のご先祖さまを供養しました。期間中は爽やかな秋空の下、ご家族そろってお参りし手を合わせる姿が見られました。

△人形仏具供養会

△興正寺施主慰霊法会

竹翠亭 月見のしつらい【十五夜】

十月二日～六日

中秋の名月にあわせ、竹翠亭が「月見」のしつらいへと装いを変え、訪れた人々の目を楽しませました。日本の伝統や文化を四季折々に感じていただける竹翠亭の「しつらい」。忘れがちな季節を愛でに、足をお運びください。

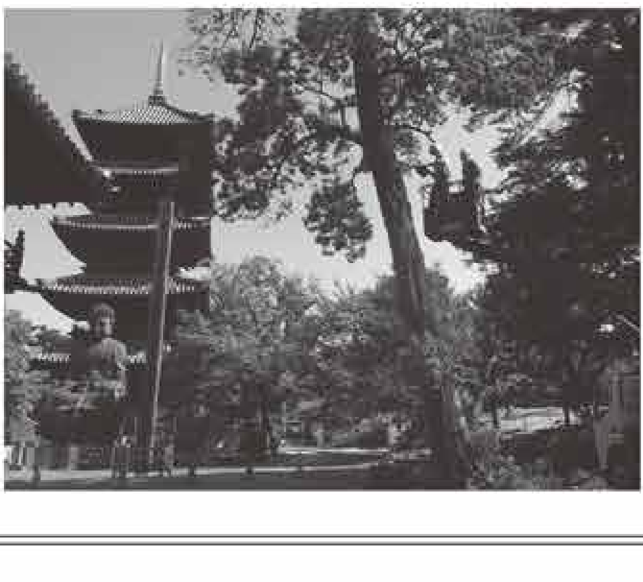
月釜

去る九月九日、興正寺月釜が開催されました。武者小路千家伊藤妙宣先生のもと、多くの来場者が訪れ、初秋の茶席を楽しまれました。

長い間ありがとう… シラカシの樹

九月二十六日、二十七日の二日間にわたり、中門の東にあって清々しい葉陰をもって皆様に愛されてきたシラカシの樹が伐採されました。寿命を迎え、樹勢が衰え、根の劣化から傾き始めたため樹木医の診断を仰ぎました。結果、「危険なため伐採もやむなし」との診断が下されたため、やむなく伐採となりました。

二十六日早朝から當山僧侶による感謝と供養の木霊法恩法要を厳修した後、伐採されました。長い間ありがとうございました。



人と街とお寺をつなぐ場所 八事山文庫

地域版

ひと

マルシェが、興正寺に自然と人が集まる"きっかけ"のひとつになるように。

サロン・ド・マルシェ 代表取締役 青木(あおき) 泰樹(たいき) さん

毎月21日の弘法大師の日に境内で開催されている興正寺マルシェ。若者からお年寄りまで多くの人が集まる。そのマルシェを取りまとめているのがサロン・ド・マルシェである。代表の青木さんが、興正寺とマルシェとの縁を語ってくれた。

サロン・ド・マルシェを立ち上げ、小規模なマルシェを様々な場所で開いていた青木さん。もっと大きな所でマルシェを開きたいと考えていた時に、知り合った人から興正寺を紹介されたという。「興正寺さんから『昔のお寺は、近所の人の憩いの場であり、いざという時に駆け込める場でもあり、子どもたちの遊び場でもあり、生活の一部として人が集う場でした。しかし今は、お墓参りや年末年始くらいしか人が訪れない場所になりつつあります。ぜひ興正寺と一緒にマルシェを開き、昔のように生活の場として気軽に人が集うお寺の姿を復活させましょう。』と言われました。」と青木さん。その言葉に感動し、興正寺マルシェを始めることに決めたそうだ。そして、5年前の千燈供養会の時に、試験的にマルシェが開催され、翌年の1月から興正寺マルシェが本格的にスタートした。

街中で開かれているオシャレなマルシェも素敵だけれど、緑に囲まれたお寺という神聖な場所で開かれる興正寺マルシェは、またひと味違った特別感を感じながら楽しむことができる。青木さんは「マルシェは、ただ商品を売り買いする場所としてだけではなく、人が繋がるコミュニティとしても成長している。」と言う。

これからは、"未来の子どもたちに安心して暮らせる地球環境を残す"というビジョンを持って、様々なことを発信していきたいと考えているそうだ。興正寺マルシェでも授乳室を設けるなど、そのビジョンを実現できるような動きをしている。

「興正寺マルシェでは、子どもたちが遊んだり学んだりできるような企画を出来たらいいなと、考えているんですよ。」そんなふうに、これからの興正寺マルシェの展開を語る青木さんのワクワクとした顔は、とても輝いていた。

△毎月21日に開催されている興正寺マルシェの様子。

△子ども連れでも気軽にマルシェを楽しめるように設けられた授乳室。

●青木 泰樹さん

野菜の流通に携わる中で「美味しくて地球環境にも優しい、自分たちが納得できる野菜や商品だけを販売したい!」という思いから、7年前にサロン・ド・マルシェを立ち上げた。

霜月(しもつき) 旧暦十一月のこと

霜がおりる「霜降月(しもふりつき)」収穫を祝う「食物月(おしものつき)」

立冬(りっとう) 十一月七日

冬の始まり。木枯らしが吹き、木々の葉が落ち、早いところでは初雪の知らせがとどくようになる。

小雪(しょうせつ) 十一月二十二日

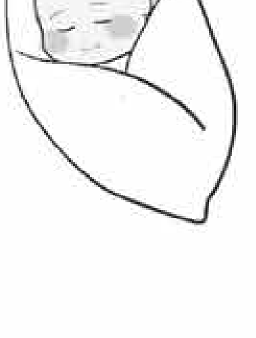
はらはらと雪の舞い始める頃。まだ積もるほどには降らないため「小」の字がつくといわれる。

親子で読みたい ことのはあそび

「身口意(しんくい)」。"身体・言葉・心"、この三つを同時に高めていくことが大切だというお大師さまの教えの一つです。このコーナーでは、声に出して誰かに聞かせてあげたい言の葉たちを毎月ご紹介していきます。

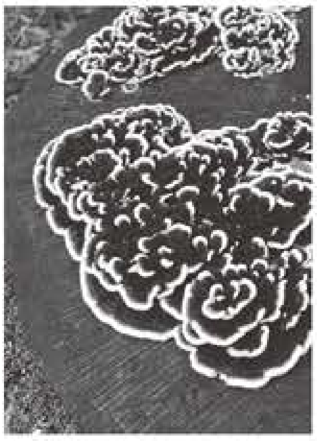
これは　ちいさい　ふくろ
ねんねこ　おんぶのとき
せなかに　たらす　赤いふくろ
まつしろな　絹のひもがついてゐます
けさは
しなやかな　秋
ごらんなさい
机のうへに　金糸のぬいとりもはいつた
赤いふくろがおいてある

「ちいさな　ふくろ」八木 重吉



八木重吉(やぎじゅうきち)(一八九八~一九二七)は、東京都出身の日本の詩人。英語科教師でもあり、教会に通って洗礼を受け、戦後にはクリスチャン詩人としても評価が高まりました。子ども・家族・信仰を題材にした短い詩が多いことが特徴です。教会で出会った妻とみとの間には二人の子女を授かり、作品には長女・桃子が数多く登場します。詩作をはじめてから、結核のため二九歳で亡くなるまでのわずか五年間で二千以上の詩編を残しました。

八事のお山の 昨日 今日 あした…



パラ模様をつけたコナラの切り株

八事のお山の様々な樹木のうち、この季節に一番美しいモミジは、今から約百年前のご住職が、開山天瑞圓照和尚の二百回忌に合わせて植樹されたものが中心となっています。モミジの寿命はおよそ百年ほど。現在、境内のモミジはそろそろ寿命を迎えているわけです。残念ながら命を終えた樹木達。お山を歩いていると、時折倒れた木や、切り株に出会う事があります。

写真の一枚は、伐採されたコナラの切り株です。ある日、素敵なブローチを付けているのに気付きました。何とキノコが樹の表面にモノクロのバラの花の模様を描いているのです。短い時間とは言え、命の逞しさと美しさに触れた気がしました。もう一枚は昔、伊勢湾台風で倒れた樹。でも長い歳月をかけて、倒れた幹から二本の枝を天に伸ばしています。兄弟の樹とよんでいますが、この近くには何と倒れた幹から5人姉妹を育てた山桜もあります。この秋、八事のお山を命の逞しさを感じながら歩いてみませんか。（井上）

兄弟の樹

お知らせ掲示板

●甘味・食事処「八琴庵（やごとあん）」より

5・13・21日限定

季節のそば（11月）

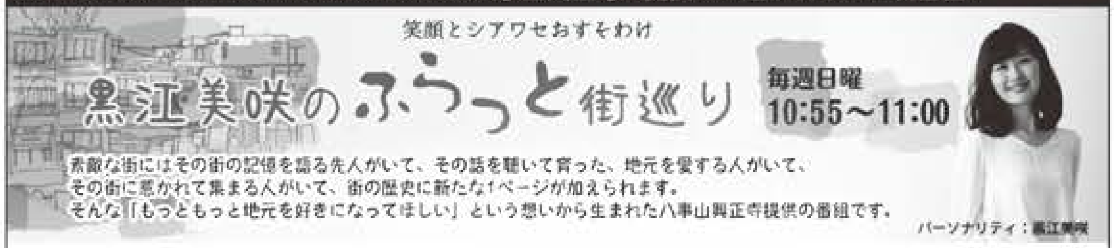
鴨汁蕎麦

紗羅餐のお店の鴨肉をそのままお椀に閉じ込めた鴨汁蕎麦が登場！温かい鴨汁椀にざるそばをつけてお召し上がりいただく、つけ汁スタイルです。
寒くなり始めた季節にぜひご賞味ください。

八琴庵 営業時間と定休日のお知らせ

営業時間　10：00～16：00（L.O.15：30）
定　休　日　毎月5日を過ぎた火曜日 11月は11月7日（火）、12月は12月12日（火）です。

@FM80.7 に、知っているお店が登場するかも？! **八事山興正寺の提供でお送りする FM 新番組！**



10/1・8	**桑山美術館　TEL.052−763−5188**	近代日本画と鎌倉時代から現代にいたるまでの茶道具を中心とする所蔵品を展示。
10/15	**串あげ酒場 なごみ家　TEL.052-835-3460**	八事駅徒歩1分。看板メニューは旨み凝縮の串揚げと、新鮮なお魚です。
10/22・29	**八事福祉会館　TEL.052-832-2779**	地域の場として様々なレクリエーション活動を行っている福祉会館が登場！

ラジオは右記のページからもお聞きいただけます。 http://fma.co.jp/f/prg/machimeguri/

仏事の ひぃ ふぅ みぃ

おぼうさん　ひふみちゃん

仏事のこと、なんでも知ってるよって人はいますか？
自信をもって手を挙げられる人は少ないんじゃないのかな。いざその時になってみないとわからない仏事のあれやこれ、お坊さんに聞いて一つずつ解決しちゃいましょう。

その34 人形・仏具の供養③（全3回）

重くてお寺へ持っていけないものはどう供養したらいいの？

仏壇や、大きな仏像など、自分で持ってくるのが難しいものは、一度興正寺に相談してみてください。おうちまでお坊さんが行って、「お精抜き」をします。物によっては引き取ることもできます。

そうなんだ！よかった！

他にも、お参りをするのが難しい、管理する人がいない、という理由で「墓じまい」の相談も増えてきているね。
いずれも、きちんとご供養をして取り扱わなければならない大切なものです。粗末にならないようにしたいものですね。

興正寺ホームページではもっと供養のことがわかっちゃいます。
トップページから、『仏事とお墓のお悩み解決』をクリック！

寺宝通心

寺宝公開㉗ 秋の宝物展「ちいさな仏展」

　年に二回の興正寺宝物展。この秋は、小さな仏像を題材に展示紹介いたします。

　一般に、寺院のお堂には仏像が祀られており、わたしたちはその仏さまに手を合わせ祈るのですが、そもそも仏さまは初めから「仏像」として表されてはいませんでした。

　お釈迦さまが教えを説かれていた時代、尊い存在を偶像化することはタブーとされており、それは釈迦入滅後約五百年の間守られていました。しかし、「お釈迦さまにどうしてもお会いしたい」と強く求めた人々が、タブーを破りそのお姿を図像化する動きが生まれました。紀元一世紀後半のことで、起源となる地は、次の二つの地が挙げられます。一つは西北インドのガンダーラ地方。ギリシャ的な風貌を持つ仏像が造られ、仏塔の周囲に仏像を配する形式が主でしたが、その後仏像崇拝が強まり、仏教美術とともに中央アジア、東アジアへと伝播していきました。もう一つは北インドのマトゥーラ地方で、肩がいかり肩で力強く量感に富む仏像が造像され、インド北部に広まりました。

　二千年を越える仏教の歴史の中で、大きさも素材もさまざまなものが造られ、なかには「名作」と称される仏像もありますが、美術的観点ではなく、人々の畏怖と崇拝の念が形として表された本来の「仏像」に想いを馳せたとき、目の前にある「ちいさな仏」に私たちは何を感じるでしょうか。

　圧倒的な大きさではない小さな存在。でもその奥に広がるものを体感しに、足を運んでみてください。

（川村）

△弥陀三尊

＊普門園拝観　五百円（呈茶付）
拝観券は「納経所」でお求めいただけます

秋の宝物展「ちいさな仏展」

会　　期：11月7日（火）～11月10日（金）
時　　間：10時～16時（11月10日は15時終了）
場　　所：普門園 大書院（入口は茶室竹翠亭）
拝 観 料：500円（呈茶付）

★桝田英伸僧侶による「絵のない絵解き」

興正寺 月釜

◆開催日　11月11日（土）10時～15時
※受付時間は9時～14時
◆場　所　興正寺茶室 竹翠亭・耕雲亭
◆茶　券　薄茶席二席　1,500円（当日券あり）
竹翠亭席　尾州久田流 下村瑞晃
耕雲亭席　興正寺

竹翠だより
お茶が教えてくれたしあわせ

「小さきうつくしき」もの

　竹翠亭の日々は、時がゆっくり流れているようにみえて、実は皆さんの想像以上に変化に富んでいます。今、竹翠亭の中にあるものを使ってどうしたら楽しくお客さまとの時間が過ごせるだろう。いつもそのことを考えて各々が思いついた「小さきうつくしき」和のことを形にしています。

　特に季節の節目、お節句の室礼は総力をあげて準備します。室礼とは飾りや調度を、その時、その場にふさわしく整えること。古典をひも解いたり、伝統や風習を私たちなりにアレンジして「小さきうつくしき」飾りを楽しみます。これは期間限定ですのでぜひお見逃しなく。

　さて、特別な時だけでなく、普段の竹翠亭にも「小さきうつくしき」ものがあります。秋深まるこの季節のおすすめは「障子の陰影」です。部屋の印象は光の具合でずいぶん変わるものです。午前とは角度の違う別の窓から陽が長く入ってくる午後は全く違う部屋のようです。夏のきつい日差しは柔らかく、寒い季節には少しの陽射しでもそれを増幅させて部屋を明るくしてくれる、なかなか心憎い技の持ち主です。

　障子の側に灯具を置いた時もその映し出す光と影が魔法のように美しいと思える時があります。谷崎潤一郎が、障子を透かしてほの明るく忍び込む「光」は何物の装飾にも優ると著し、その繊細な明るさを楽しむことができるのが日本人の感性だと述べています。障子のある部屋は心が落ち着きくつろいでもらえます。つい見過ごしてしまいがちな「小さきうつくしき」気づきはこんなにすぐ身の回りにあるのです。

法類寺院紹介

法類寺院とは?…互いに密接な関係をもつ寺院で、かつての師匠と弟子などの繋がりを持つ場合も多い。お寺の親戚関係。

普照庵(ふしょうあん) 龍福寺(りゅうふくじ)(名古屋市昭和区滝子町)

名古屋二十一大師第二十番霊場
興正寺開山・天瑞圓照和尚(てんずいえんしょうわじょう)の母上様のお寺

△山 門

△柳大師

△内 陣

【寺院プロフィール】

- ●寺院正式名/普照庵 龍福寺
- ●創建・開基・開山/
  - 【創建】江戸時代初期
  - 【開基】普照庵性誉即芳尼(ふしょうあんしょうよそくほうに)(興正寺開山・天瑞和尚の実母)
  - 【開山】普照庵恵順尼(ふしょうあんえじゅんに)(興正寺開山・天瑞和尚の妹)
- ●宗　派/高野山真言宗
- ●本　尊/地蔵菩薩(徳川宗春公の生母(おわはる)・宣揚院(せんよういん)の念持佛を宗春公により寄進される。胎内に萬米上人(まんまい)作の地蔵菩薩が入っているという)
- ●所在地/愛知県名古屋市昭和区滝子町30

【寺院データ】

- ●伽藍数(土地の大きさ)
  本堂(地蔵堂)、庫裡、山門
- ●文化財/
  秘仏地蔵菩薩(一年に一度御開帳)
  柳大師(柳の木でつくられた弘法大師像)
  名古屋二十一大師霊場巡礼の御宝印あり
- ●年中行事
  一月最終土曜日　大般若転読祈祷会
  六月最終土曜日　土砂加持法要

龍福寺の鈴村隆弘住職にお話しをお伺いしました。

―― 龍福寺の由緒を教えてください。

もとは普照庵という尼寺で、元禄年間に興正寺開山、天瑞和尚の実母が尼僧としてこの寺に住まわれました。本尊の地蔵菩薩は徳川宗春公より寄進された仏像で、平安時代の僧・萬米上人の作と言われた秘仏です。一年に一度、大般若の時にだけ御開帳されます。この御本尊にちなんで「地蔵堂」「地蔵寺」と呼ばれてきました。大正初期に高野山にあった寺院「龍福寺」があわさり、現在の「普照庵龍福寺」という名称になりました。かつては尾張三弘法の最も古い札所として香煙の絶えることがなかったと言います。

―― 興正寺との関係を教えてください。

興正寺の開山天瑞圓照和尚の実母がおられた寺であり、近年は興正寺の住職が隠居してここの住職に入りました。繋がりの強い法類寺院です。

―― 龍福寺の活動のすばらしさについてアピールをお願いします。

年に二回の大法要、大般若と土砂加持は、信者の方も参加していただけるように工夫しています。大般若経の転読をしていただけたり、「僧俗一体」となって二年越しで御土砂を加持したりしています。また、高野山の金剛流御詠歌を広く弘めています。いくつもの教室で大勢の生徒さんに御詠歌の素晴らしさを伝授しています。

(取材・文責　桝田英伸)

奥之院大祭

―阿弥陀仏への敬信の思いを深める―

11月15日(水)東山本堂にて
13時より法会

特別祈祷 ― 祈祷料 千円

◆五鈷杵加持(ごこしょかじ)
御本尊の阿弥陀如来さまと善の綱でつないだ五鈷杵で皆さまをお加持することで、仏さまの力を注ぎこみ、魔を払い福を招き入れます。

◆護符
興正寺五世・諦忍妙龍和尚(たいにんみょうりゅう)が梵字で書いた「南無阿弥陀仏」の護符をお授けいたします。安楽往生の御利益があります。

◆祈願ろうそく/1本 百円
願意とともに宝珠の燭台にあげていただき、ろうそくの炎で仏さまに願いを届け御祈願いたします。

◆落語
法会の後には、[illegible]による落語も行われます。おふるまいもございますので、ぜひご参加ください。
※落語の内容は当日発表いたします。

合格祈願

虚空蔵菩薩

八事山 興正寺

日程
10月より第2・第4日曜日 14時より能満堂にて
平成29年
10月8・22日(日)
11月12・26日(日)
12月10・24日(日)

受付
祈願料　五千円
電話・来寺(納経所)

尾張徳川家の祈願所として享保2年、継友公により建立された興正寺の能満堂。ご本尊、虚空蔵菩薩は今日も学問の仏として多くの参拝者が訪れます。虚空蔵菩薩は智慧や知識、記憶のご利益をもたらす「智慧もらい」として古くから篤く信仰されてきました。興正寺の合格祈願はこの虚空蔵菩薩へ祈願いたします。

平成大改修志納 ご芳名

《金参千円》榎本 敏子

自 平成二十九年 九月一日
至 平成二十九年 九月三十日

（順不同 敬称略）

ありがとうございました。
心より感謝申し上げます。合掌
八事山 興正寺

―お寺の法会まるごと体験！―

一日修養会（いちにちしゅうようえ）

平成29年の一日修養会、テーマは昨年に引き続き「興正寺の法会」。
季節ごとにおこなわれる法会を、詳しくわかりやすく解説いたします。内容を学んでから法会にご参加いただく体験は、興正寺ならではです。法会参加者には特別朱印の授与もございます。
今年は各回、特別講師を招いて対談やレクチャーなども予定しております。
写経の時間もございます。こちらも僧侶が解説いたしますので、初めての方も安心してご参加いただけます。皆さまふるってご参加ください。

平成29年12月3日（日） 10時～15時30分

「三千仏佛名会―法話・特別対談（予定）・法会参加・写経」
～全ての生き物の罪を懺悔する荒行～

仏名会は五日間かけて過去・現在・未来の三千名の御仏の名を唱え、「五体投地」という最高の礼拝を繰り返す懺悔礼拝の修行です。一年の終わりに、あらゆる生き物たちの罪を僧侶たちが自らの体を痛めつけることによって引き受け、罪滅ぼしをしてゆく代受苦の法会でもあります。尊い仏の御名を讃えつつ礼拝しましょう。
※三千仏佛名会の法会にご参加いただきます。動きやすい服装で、暖かくしてお越しください。

◎支　具　料：一般 2,300円／杜の響会員 1,300円
（昼食付・特別朱印授与）
◎定　　員：60名 要予約
◎申込締切：11月30日（木） 17:00
◎お問合せ・お申込み：052-832-2801
※スケジュールや内容は状況などにより変更になる場合がございますのでご了承ください。
※支具料は事前にお納めいただけます。

今後の予定 未定 ※12/3が本年最後となります。

興正寺開山和尚 天瑞圓照三百回御遠忌にむけて（二）

平成三十年は、興正寺の開山である天瑞圓照和尚の三百回忌にあたります。その遺徳を偲び、三月十四日には法要と開山忌記念茶会、十一月には和尚の足跡をたどる宝物展の開催・記念植樹などを予定しております。

天瑞圓照和尚は、摂津国（現在の大阪府・兵庫県の一部）の伊勢藤堂家の末裔野田氏に生まれました。長じて武蔵国（現在の東京都と埼玉県の南部の一部と千葉県の北東部の一部）の長慶寺で剃髪するまでの詳細な記録は残されていませんが、師が早くに没したため授戒後は各地をめぐり教えを乞いました。

その中で、江戸時代、日本の文化に多大な影響を与えた黄檗宗の門を叩き木庵禅師の元に参じましたが、一人の僧と出会ったことで真言律寺建立を深く志していきます。

その後和泉国（現在の大阪府南西部）神鳳寺の真政圓忍和尚、快圓慧空和尚に侍し、「鑑真和尚大衣」を授かり後継と目されるまでになりました。また、当時戒律を学ぶことができた高野山新別所にも参じましたが、真言律宗の寺院を建立するにふさわしい地を求めて、伊勢の皇大神宮にこもって祈願を続け、満願の折のお告げにより貞享三年（一六八六）尾張国八事の地へたどりつき、草庵を結びました。

尾張徳川家二代藩主光友公の知遇を得て名古屋城に客僧として二年の間滞在した後、光友公の帰依をうけて元禄元年（一六八八）に真言律宗の寺院建立を許され、八事山興正律寺を創建しました。

学問と修行の寺として多くの弟子に戒を授けた和尚のお志は、今日まで変わらず受け継がれています。

△天瑞圓照和尚

11月の興正寺講座

※日程・会場は変更する場合がございます。事前にお電話にてご確認ください。

仏讃歌

御詠歌上級 講師 鈴村隆弘
11月7日・20日 13時30分より 光明殿
金剛流御詠歌の上級者向け講座です。

御詠歌初級 講師 鈴村智弘
11月11日・21日・26日 14時より 光明殿
金剛流御詠歌の初級講座です。21日は本堂出仕。

御詠歌入門 講師 鈴村智弘
11月4日・18日 14時より 光明殿
金剛流御詠歌の超入門、お作法や符の読み方からはじめます。

体験する

阿息観（密教禅） 講師 杉浦宣秀
11月10日・20日 14時より 普照殿／奥之院
ストレスゼロをモットーに、毎月ゼロの日(10・20・30)にやっております。誰でも心地よくリラックスできますよ！

阿字観 講師 杉浦宣弘
11月25日 13時より 奥之院
真言密教の基本的な瞑想法です。阿息観で基本的な呼吸法を習得してから受講することをお勧めします。

写経・写仏 講師 桝田英伸
11月21日 11時より 光明殿
毎月21日マルシェの日に行われる、写経写仏の体験です。どなたでもご参加いただけます。13時より法話あり。

学ぶ

仏教入門講座 講師 森田泰澄
11月23日 14時より 普照殿
難しい用語を使わず、お経を中心に勉強していきます。脱線話も多いので気楽に参加できますよ。

仏典読み解き講座 講師 桝田英伸
11月24日 10時より 普照殿
仏典（仏教典籍）とは、仏教における権威ある書物のこと。ここでは、地獄極楽の古典的名著『往生要集（おうじょうようしゅう）』を読み解いていきます。

健康づくり

TERA-YOGA（寺ヨガ） 講師 西口のぞみ
11月21日 10時より 普照殿
支具料2,000円（要予約・〆切前日17時）

マタニティヨガ 講師 西口のぞみ
11月21日 13時より 普照殿
支具料2,000円（要予約・〆切前日17時）

遊翠の心

茶室・竹翠亭にて行われる少人数制の講座です。時間や講座内容については、竹翠亭へお問い合わせください（全て要予約）。

講座	日程	講師	支具料
写　経	11月14日	講師 西山海良	支具料1,500円
阿息観	11月28日	講師 西山海良	支具料1,500円
日々折々の書	11月27日	講師 中村　均	支具料2,000円
水墨画	11月24日	講師 山田静舟	支具料2,000円
きもの装い（入門・応用）	11月1日	講師 小泉美代子	支具料2,000円
茶の古典を読む	11月9日	講師 桝田英伸	支具料1,500円

御詠歌上級・初級を除くすべての講座でWEB予約が可能となりました。興正寺公式ホームページ「まなびの講座WEB受付」よりお申し込みください。

八事今昔物語 ～そこにお寺のある暮らし ③～

先回に引き続き、暦のお話しを。一年を大ざっぱにとらえますと、昼夜の時間、つまり太陽の動きから一年を夏至と冬至の2至に分け、さらに春分と秋分とに2分しました。それでさらにその間に立春・立夏・立秋・立冬の四立と分けて、さらにさらにそれを15日ずつ3等分にしたのが二十四節気なのです。八事山文庫の地域版にも載っていますね。どうぞ、丸いケーキを切り分けてるつもりで想像して下さい。24等分されたケーキをさらに5日ずつ分けたのが七十二候（しちじゅうにこう）と呼ばれます。元々これも中国の人たちが、中国の気候に合わせて作ったので、現在は日本に合わせた本朝七十二候と呼ばれるものが使われています。ちなみに、「気候」という日本語は、この二十四節気と七十二候から作られた言葉だとか。

この二十四節気の表す季節感はブレが少ないので、農耕民族にはとても大切だったのですね。今月の八事山文庫が皆様のお手元に届く頃は、朝夕の冷え込みが強まって、山里では霜が降る頃になるので「霜降（そうこう）」と呼ばれます。約2週間（15日）で季節の流れを感じる訳ですね。ましてや七十二候は5日ごと。日々の季節の移り変わりを刻々と感じている日本人は"自然"に敏感な民族だと思いますがいかがでしょう。

お寺では数え年を使いますが、よく「1月生まれなんですが…」とか「干支はどう考えればいいでしょう…」という質問を受けます。「立春を過ぎないと前の年」との考えがあり、根底にあるのはこの「年の初めは春」という感じ方から。旧暦では正月元日の前後15日間に立春が来ていましたから、ごっちゃになっています。立春が正月元日の前に来ちゃう事も良くあることなのです。今の私達には摩訶不思議な感覚かもしれません。（井上）

編集後記

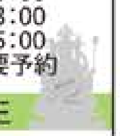
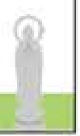
七五三の季節。晴れ着をきて誇らしげに歩く子、ご祈祷にびっくりして泣いちゃう子。それにしても最近の「名前」は難しい。（千）

発行所 真言宗 八事山 興正寺 http://www.koushoji.or.jp TEL 052-832-2801 FAX 052-832-8383　平成29年（2017年） 11月号 毎月21日発行

興正寺行事カレンダー

11月

普門園拝観（竹翠亭利用）時間 10:00～16:00
休園日（休業日）／3日（金・祝）・4日（土）・6日（月）・11日（土）
18日（土）・19日（日）・20日（月）・25日（土）・26日（日）・29日（水）

月	火	水	木	金	土	日
30 先勝	31 友引	1 先負 ▽遊翠の心 きもの装い 10:00 13:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円	2 仏滅	3 大安 文化の日 ◎七五三 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 能満堂 要予約	4 赤口 ◎七五三 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 能満堂 要予約 ▽御詠歌入門講座 14:00 光明殿 鈴村 智弘	5 先勝 ◎大随求明王 縁日 露店アリ 10:00 干支成満巡り ◎七五三 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 能満堂 要予約  大随求明王
6 友引	7 先負 立冬 戊の日 ◎安産合同祈祷会 14:00 本堂 ▽御詠歌上級講座 13:30 光明殿 鈴村 隆弘 ★八琴庵定休日 ★永代供養受付定休日	8 仏滅 ◎大日如来縁日 12:30 大日堂 理趣分経祈祷 収穫祭 大日如来	9 大安 ▽遊翠の心 茶の古典を読む 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 桝田 英伸	10 赤口 ▽阿息観 14:00 奥之院 杉浦 宣秀	11 先勝 ◎七五三 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 能満堂 要予約 ☆月釜 尾州久田流 下村瑞晃 興正寺 薄茶二席 1,500円 ▽御詠歌初級講座 14:00 光明殿 鈴村 智弘	12 友引 ◎七五三 11:00 12:00 13:00 14:00 能満堂 要予約 ◎合格祈願会 15:00 能満堂
13 先負 ◎虚空蔵菩薩 縁日 露店アリ 10:00 法話会 10:00 干支成満巡り 虚空蔵菩薩	14 仏滅 ▽遊翠の心 写経 10:00 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山 海良 ★永代供養受付定休日	15 大安 ◎東山 奥之院大祭 13:00 奥之院 特別祈祷 五鈷杵加持 阿弥陀如来	16 赤口	17 先勝	18 仏滅 ◎観世音菩薩縁日 13:00 観音堂 護摩祈祷／法話 ◎七五三 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 能満堂 要予約 ▽御詠歌入門講座 14:00 光明殿 鈴村 智弘 観世音菩薩	19 大安 戊の日 ◎七五三 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 能満堂 要予約 ◎安産合同祈祷会 14:00 本堂
20 赤口 ▽阿息観 14:00 普照殿 杉浦 宣秀 ▽御詠歌上級講座 13:30 光明殿 鈴村 隆弘	21 先勝 ◎弘法大師縁日 10:30 弘法堂 読経／法話 ◎月並御影供 14:00 本堂 ▽写経写仏講座 11:00 光明殿 ▽御詠歌初級講座 14:00 本堂出仕 ☆TERA-YOGA 10:00 普照殿 要予約 ☆マタニティヨガ 13:00 普照殿 要予約 弘法大師 興正寺マルシェ	22 友引 小雪	23 先負 勤労感謝の日 ▽仏教入門講座 14:00 普照殿 森田 泰澄	24 仏滅 ◎地蔵菩薩縁日 13:00 能満堂 大数珠おくり／紙芝居 ▽仏典読解講座 10:00 普照殿 桝田 英伸 ▽遊翠の心 水墨画 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円  地蔵菩薩	25 大安 ◎七五三 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 能満堂 要予約 ▽阿字観 13:00 奥之院 杉浦 宣弘	26 赤口 ◎七五三 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 能満堂 要予約 ◎合格祈願会 15:00 能満堂 ▽御詠歌初級講座 14:00 光明殿 鈴村 智弘
27 先勝 ▽遊翠の心 日々折々の書 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円	28 友引 ◎不動明王縁日 14:00 不動護摩堂 護摩祈祷／法話 ▽遊翠の心 阿息観 10:00 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山 海良 ★永代供養受付定休日 不動明王	29 先負	30 仏滅 ▽遊翠の心 茶の扉 竹翠亭 要問合せ	1 大安	2 赤口	3 先勝

☆秋の宝物展「ちいさな仏」展　10:00～16:00（最終受付15:30,10日は15:00）大書院 （7日～11日）

奥之院大祭
― 阿弥陀仏への敬信の思いを深める ―

11月15日（水） 東山本堂にて
13時より法会
特別祈祷／祈祷料 1,000円

◎五鈷杵加持（ごこしょかじ）
御本尊の阿弥陀如来さまと善之綱でつないだ五鈷杵で皆さまをお加持いたします

◎護符
興正寺五世・諦忍妙龍和尚が梵字で書いた「南無阿弥陀仏」の護符をお授けいたします

― 興正寺は自然環境に配慮し、地球環境保全に貢献しています ―